

## 「全鍍連」 2019年8月号 巻頭言

全鍍連 副会長 苅宿 充久（三共鍍金(株) 代表取締役）

「環境担当副会長の就任にあたり」



此の度、環境担当の副会長に就任致しました。

環境規制の対応・汚染土壌の問題等、難題ではありますが全国鍍金組合連合会として、しっかり取り組んで参りたいと思っております。

さて、昨年のは前半は景気も回復基調の中でスタートしたものの連日伝えられている様に米・中の貿易摩擦問題やイギリスの EU 離脱等の世界的な問題で我々業界も昨年の秋頃から年明けにかけて景況はかなりの落ち込みとなりました。

令和の新元号になっても、日本経済は不透明感が漂っている状況です。いかに貿易相手国であるアメリカ・中国の影響が大きいのか思い知らされているところでは。2020年のオリンピック・パラリンピック効果が少なからずあるものの、業界全体的には受注量の減少が見受けられます。

特に半導体をはじめとするエレクトロニクス業界などにおいては、深刻な受注減になっております。更に原材料の値上、燃料費等の仕入価格の上昇も重なり非常に厳しい状況が続いております。さらに我々業界には多くの課題が重くのしかかっています。人材育成・事業継承・環境規制問題に対する対応です、環境担当の副会長として特に環境規制についてはしっかりと対処して参りたいと思います。

また、組合維持の視点から特に問題なのは、何と言っても組合員の減少でしょう。これは全国どこの組合でも頭をかかえている問題だと思います。全国工業鍍金組合連合会としても減少に歯止めをかけるべく何らかの手を打って行きたいものです。最近の経済の傾向は、大企業の一人勝ちのようです。日本の企業の99%は中小零細企業です。この中小零細が日本経済を支えているのですからもう少し我々も恩恵を…

私は、人材育成の観点から東京都鍍金工業組合高等職業訓練校の校長も仰せつかっており、東京都能力開発協会の理事、全国鍍金工業組合からは中央職業能力開発協会の参議として会に出席をしております。各企業が人材不足の中、我々業界も同様です。そこで東南アジアなどからの技能実習生も多く三年間が経過すると随時3級の実技と試験を行っています。これらは、東京都鍍金工業組合が主体となって行っておりますが、検定委員の不足も否めません。国の方針で働き方改革が進んでおりますが、中々うまくいきません。

能力開発協会と話し合いながら前に進めている所です。

最後になりますが、山田新会長のもと、船出となりますが新執行部一丸となって頑張る参りますので、組合員の皆様の

ご指導、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。